



2017年11月3日(金)～

2017年11月16日(木)の活動

○ ベトナム経済セミナーin 福井

～ハナム省の投資環境～

11月7日(火) 福井市

北陸経済連合会、北陸AJECは在大阪ベトナム総領事館、ベトナム・ハナム省政府と連携し、福井市ハピリンにて「ベトナム経済セミナーin 福井～ハナム省の投資環境～」を開催した。セミナーには日本側22名、ベトナム側7名が参加した。

ベトナム側からはハナム省の投資環境について発表があった。日本側からは日華化学(株)、(株)ジャパンフラワーコーポレーション、サンコーポレーション合同会社がベトナム進出事例を紹介した。また、三谷産業(株)は「北陸・ベトナム相互企業進出促進協会」について、北陸先端大は支援施策について発表した。

10月開催のベトナム経済交流会議と合わせて、政府関係者と連携した有意義な会議となった。(担当:平)

○ 平成29年度 第1回国際交流推進委員会

11月8日(水) 金沢市

金沢ニューグランドホテルにて「平成29年度第1回国際交流推進委員会」と「北陸AJEC第56回企画部会」を合同開催し、国際交流推進委員会委員4名、北陸AJEC企画部会委員22名が出席した。

江守国際交流推進委員長、丸屋企画部会委員長の挨拶後、「平成29年度事業活動報告(H29/4～10)」、共同シンポジウム「北陸地方創生と国際化・イノベーション」および国際交流会議開催報告について事務局から説明し、続いて各事項について活発な意見交換が行われた。

また、「第18回北陸・韓国経済交流会議開催結果報告書」を、出席者へ配布した。(担当:平)

○ 北陸新幹線関西・北陸トップ会談

11月8日(水) 大阪市

北陸経済連合会と関西経済連合会・大阪商工会議所・関西経済同友会の4経済団体のトップは、北陸新幹線の大阪までの延伸に関し、初めて意見交換した。4団体は早期開業の必要性で一致し、財源確保などの課題に対し、連携して取り組むことで合意した。

会合の冒頭、久和会長は「北陸が関西と新幹線で直接結ばれると、関西地域の活性化にも大きく貢献する。2030年頃までの大阪への全線整備が実現されることを強く求めていく。」と述べた。また、関西経済連合会の松本会長は、「財源がきっちり付けば、2030年頃に全線開業ができる。」と述べ、4団体で議論を深め、政府や与党への働きかけを強めていく考えを示した。

(担当:狩野)

○ 第44回北陸地方経済懇談会

11月9日(木) 金沢市

(一社)日本経済団体連合会との第44回北陸地方経済懇談会を、ホテル日航金沢で開催した。『北陸の成長戦略～GDP600兆円経済への道筋～』を基本テーマに、経団連から榊原定征会長はじめ約30名、当連合会から約130名が出席した。

懇談会前に経団連主催にて開催された昼食懇談会では、金沢大学山崎学長と北陸先端科学技術大学院大学の浅野学長を招き、「地方創生と大学改革」をテーマとした意見交換が行われた。

経済懇談会あいさつで、久和会長は北陸地域の成長戦略の為には、①北陸新幹線の大阪までの早期全線整備を始めとした交通インフラの整備②人材・企業の東京一極集中の是正が必要であると訴えた。

続いて経団連榊原会長は、経団連の活動報告を行い、GDP600兆円に向けた成長戦略として、Society5.0(超スマート社会)の実現が最優先課題であると述べた。

懇談会では、「国土強靱化と交流人口の拡大に不可欠なゴールデンループ」のテーマのもと、北陸新幹線の大阪までの早期開業は、災害時における東海道新幹線の代替機能、および今後増加するインバウンド需要を日本海側に送り込むなど交流人口の拡大に不可欠なものであるなど意見交換が行われた。

「地方創生のモデル地域を目指す」のテーマでは、先端技術の推進による地域産業の拡大や高まる人手不足感に対して北陸の魅力を十分に発信して、特に女性活躍に向けた環境の整備が必要であるなどの提言があった。また、経団連と昨年より進めているマッチング事業についても、進捗状況を紹介し、今後更に連携を深めていくことを確認した。

その後行われた記者会見で、榊原会長は北陸新幹線について①三大都市圏との広域経済圏の実現②ゴールデンループを活用した広域観光の推進③非常時における東京・大阪間のバイパス機能について指摘し、早期整備に向け期待を示した。

(担当:本多)

○北経連トピックスNo.101 (H23.6.2発行分)
より当連合会HPに掲載しております。
バックナンバーのお問い合わせは小山まで。
(Tel076-232-0472)

○ 西日本経済協議会要望活動

11月10日(金)

東京都

西日本経済協議会（北陸、中部、関西、中国、四国、九州の六経済連合会で構成）は、10月4日に金沢で開催した第59回総会での決議を受け、政府および与党への要望活動を実施した。

幹事経連である北経連の久和会長、水野専務理事を含む六経連の代表が参加し、菅官房長官、麻生財務大臣、石井国土交通大臣、自民党の二階幹事長、竹下総務会長、岸田政調会長、内閣府の梶山地方創生担当大臣、平木経産大臣政務官に面会。地域産業や観光の振興、人口減少社会への対応、社会基盤の整備などを要望した。

久和会長は、菅官房長官、二階幹事長、石井国土交通大臣に直接、北陸新幹線の金沢・敦賀間の2022年度末までの確実な開業と2030年頃までの大阪への全線整備などを強く要望した。（担当：久野）

○ 北陸新幹線中央要請

11月14日(火)

東京都

北陸新幹線建設促進同盟会・北陸新幹線建設促進北信越五県議会協議会・関西経済連合会・関西広域連合会と合同による中央要請活動を実施した。当連合会からは久和会長、菱沼・稲垣副会長が参加し、富山・石川・福井・長野・新潟知事、県議長の他、京都・大阪府の副知事ならびに関西経済連合会の八木副会長らとともに、自民党岸田政調会長・金田幹事長代理および公明党佐藤政調会長代理・浜田政調会副会長・太田北信越方面副本部長および石井国交大臣、小倉総務大臣政務官に、以下の要請を行った。

【要望要旨】

- ①金沢・敦賀間について、2022年度末までの確実な開業と更なる前倒早期開業に向け最大限努力すること。また、在来線特急の運行本数の維持・拡大など、関西・中京圏等とのアクセス向上を図ること。
- ②敦賀・大阪間について、駅・ルート詳細調査および環境アセスメントを迅速に進め、あらゆる手段を尽くして2030年頃までに大阪までの全線整備を図ること。
- ③これらを実現するため、平成30年度予算において十分な建設財源を確保し、従来の整備スキームを見直すこと。
- ④沿線の自治体に過度の負担が生じないよう十分な財政措置を講ずると共に、負担に見合う受益の確保を図ること。
- ⑤並行在来線が存続できるよう、新たな仕組みを早急に構築し、老朽化した設備の更新などに対し支援施策の充実を図ること。
- ⑥公共事業費の拡充・重点配分、JRからの貸付料の活用など、幅広い観点から財源を確保すること。（担当：本多）

○ 新入会員のご紹介

【独立行政法人住宅金融支援機構 北陸支店】

支店長 廣岡 隆

(業種：金融・保険業)

〒920-8637

石川県金沢市広岡3-1-1 金沢パークビル2階

Tel：076-233-4253 Fax：076-232-1898

※ 当連合会では、新規会員を募っております。会員の皆様にはお知り合いの方に広くお声をかけていただき、ご紹介を賜れば幸いです。（TEL076-232-0472）

お知らせ

○ シンポジウム「北陸経済の軌跡と今後の展望」

標記シンポジウム（主催：中部経産局電力・ガス北陸支局、共催：北経連）を開催します。

◆日時：平成29年11月27日(月) 13:00～14:50

◆場所：富山第一ホテル

*詳細・参加申込は当会HPをご参照ください
本シンポジウムは会員以外の方もご参加いただけますので、お誘い合わせの上、是非ご参加ください。

なお、シンポジウム後の15:10～17:40に会員懇談会（富山会場）を開催します。会員懇談会では、北経連創立50周年記念講演「経済指標から見る北陸の歩み」を実施いたします。

○ 忘れ物を預かっています

11月9日(木)にホテル日航金沢で開催いたしました第44回北陸地域経済懇談会でボールペンの忘れ物がありました。

ボールペンは経済懇談会D-11の席付近にありました。

ボールペンは事務局で預かっております。お心当たりのある方は事務局・越野までご連絡をお願いいたします。

電話番号は076-232-0472です。

今後の主な活動予定

□11月27日(月)

シンポジウム「北陸経済の軌跡と今後の展望」

＜場所：富山第一ホテル＞

※上記お知らせをご参照ください

□11月30日(木)

共同シンポジウム

「北陸地方創生と国際化・イノベーション」

＜場所：金沢ニューグランドホテル＞

□平成30年1月22日(月)

新春経済懇談会・新年祝賀会

＜場所：金沢ニューグランドホテル＞